マチの二十八年を見つめて

三月、南富良野中学校の卒業式で、ビデオを構え、校内のあちこちを忙しそうに回っている人がいる。思えば、吹奏楽部の定期演奏会でも、さらに思い出せば小学校の卒業式でも、同じ人がビデオ片手に子どもたちの姿を追っていた。

山田長悦さん七十八歳。町の大人たちから「長さん」のニックネームで慕われるこのおじさん、町内のイベントのほか、保育園や小中学校の各種行事を撮り続けて二十八年になる。

山田さんがビデオ撮影を始めたのは、昭和五十五年。まだビデオカメラが発売されるようになって間もないころのことだ。はじめは家族の思い出をビデオに収めていただけだったのだが、当時役場職員だったこともあり、町内での出来事をビデオ撮影するようになったのだという。

撮影の腕もすごいが、さらに驚くのは、その編集技術だ。数時間で終わる式典も、二日がかりの湖水祭りも、編集後には百二十分のビデオテープ一本に収められる。完成したものは、関係者に安価で分けてくださるので、町内行事には欠かせない人なのである。

山田さんにとって、これまでで一番の大仕事となったのは、昭和六十年、NHKのアマチュアビデオコンテストで優勝に輝いた、金山湖の「キャンドルアイス」を追った作品だ。当時、全国放送でも取り上げられ、民放からも問い合わせが殺到したのだそうだ。湖面の氷が解け始める春、カヌーで湖にこぎ出すと、厚い氷が、ボールペンのような棒状にカラカラと崩れる現象が起きたのだという。有識者の間では「スティック氷」と呼ばれるが、その形から「キャンドルアイス」とも言われていたらしい。カヌーの進行によって二手に分かれた氷が、元の場所に戻るとき、氷は何とも言えない美しい音色を響かせる。その珍しい光景を、山田さんは、水上と水中の両方からビデオで撮影することに成功した。水中カメラなど持っていない山田さんは、何と金魚用の水槽にカメラを仕込み、浸水しないように斜めに傾けながら撮ったのだという。温暖化の影響もあり、金山湖でスティック氷が確認されたのは、その年だけ。大変貴重な映像となったのだ。

これがきっかけとなり、NHKの通信者として町の風物詩を伝えたり、事故発生の際にはニュースに使う映像などを撮るかたわら、地方の人々の思い出を撮り続けて来たそうだ。

撮影もこれだけ長年になってくるともしかすると保育所の頃から成人式、結婚式まで人生の節目を全て山田さんのお世話になっている人もいるかもしれない。年齢からは想像がつかないほど元気に活躍している山田さん。「自分であれこれ判断できる間は、撮り続けるよ。これが健康の秘訣かもしれないね。」と語ってくれた。六十五歳も年上の山田さんに、エネルギーを分けてもらった気がした。

心に響くハーモニー

「二年生の合唱がとてもよかった。」そんな言葉に、二年生は耳を疑いながら、何とも言えない手ごたえを感じていた。学校祭合唱コンクールへ向け、中間発表会が行われた直後のことである。二年生の誰もが、口にしなくても思っていたはずだ。「自分たちの合唱が、よかったと言われる日が来るなんて。」

記憶は昨年四月にさかのぼる。

開校二年目にして、早くも「合唱が伝統」になりつつあった南富良野中学校に、「歌声の小さい一年生」が入学して来た。彼らにとって、歌うことは、恥ずかしいことだった。二・三年生の歌声をすごいと思っても、ただそれだけだった。

ある晴れた日。担任の松尾先生は、学級活動の時間に何も知らされずに一年生を音楽室に集めた。そして、言った。「これがみんなにとっての『ふるさと』だよ。」

目の前いっぱいに広がっていたのは、青空、空知川、そして森を抱いた山々。

そのまま、『ふるさと』の前奏が始まる。歌詞の「かの山」と、目の前の山が重なった。歌っている言葉が、心に届く、初めての経験だった。『ふるさと』は、一年A組の帰りの歌として、その後、毎日歌われるようになった。

そんな一年生が、合唱コンクールの自由曲に選んだのは『勇気を下さい』という歌。少しずつ進歩していても、合唱となると話は違う。声も気持ちもバラバラな一年生に、音楽の大好きな校長先生がアドバイスをくださった。「みんなで左右に体を揺らして歌ってごらん。」はじめは歌いにくかった。かえって恥ずかしいような気もした。だが、気が付くと息が合い、歌声もひとつになった。みんな、自然に笑顔になっていた。

あれから一年。二年生は現在、自由曲『明日へ』の練習に一生懸命取り組んでいる。男女の声のバランス、強弱など、課題もまだある。全力で歌えていない日には、担任の松尾先生に指導を受けることもある。そんなときは、中間発表の日の、「私達も歌声の響く学校の一員なんだ」という気持ちを思い出そうと思う。

コンクール当日、心に響くハーモニーが作られたら、最高だ。

□発行／南富良野町役場　編集／企画課 広報統計係　Tel.52-2115
□ホームページアドレス http://town.minamifurano.hokkaido.jp

古紙配合率100パーセントの再生紙を使用しています。